

マグマから噴火まで 一研究に使用する代表的な手法を習得する一

担当教員：大倉敬宏・楠本成寿・宇津木充・横尾亮彦・澤山和貴・石井杏佳

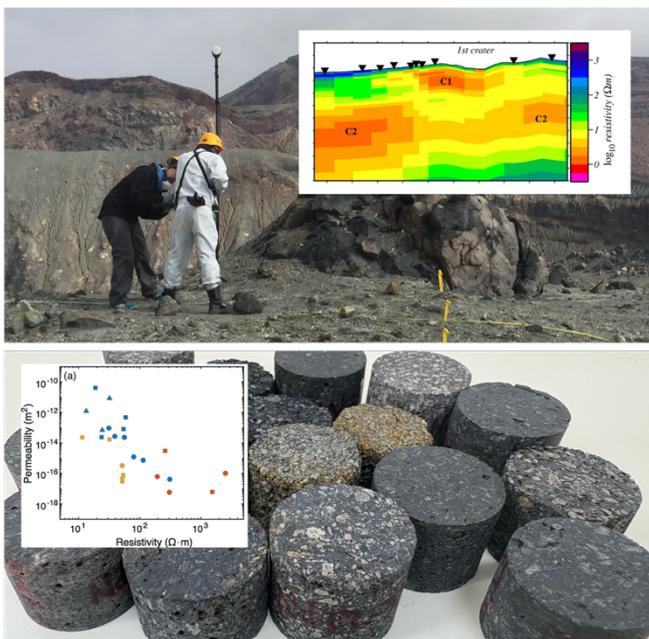
関連分野：地球熱学・火山物理学

概要：マグマの発生から噴火にいたるまでのさまざまな現象をとらえ、理解するために、地震・空振や地殻変動、重力、電磁気、熱などの多様な研究手法が用いられている。本課題では、これらのうちのいくつかを実践的に習得し、地下で生じる現象を多角的に捉える視点を養う。今年度はとくに、野外観測と室内計測によって地下流体の分布や動態（移動・噴出）を解明することを試みる。

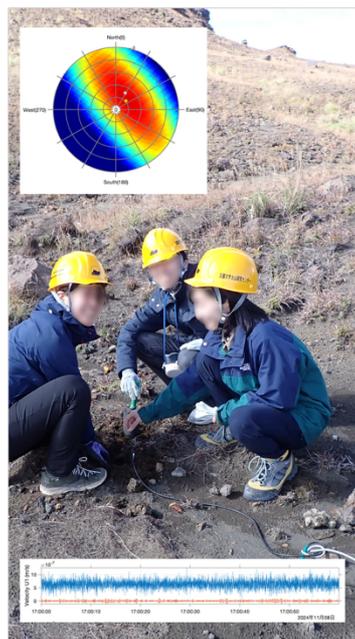
内容：夏季休暇中に別府・阿蘇で現地実習を行い、それぞれの場所で取得したデータの解析作業等を後期に行う。具体的には、電気探査による地下比抵抗構造の推定、岩石物性測定による地下熱水状態の推定、地震アレイ観測による微動源推定、地震・空振解析による噴出現象の検知を予定している。

注意事項：現地実習は別府・阿蘇3泊4日の日程で開催する（現地集合・現地解散）。8月18日～25日の候補期間のうち、参加者の都合を考慮して調整する。現地までの往復交通費と食費は自己負担してもらうが、別府・阿蘇間の移動および現地宿泊費は無料である（地球熱学研究施設の本部と火山研究センターに宿泊する場合）。

電気探査で地下比抵抗構造を知る/ 別府・阿蘇の溶岩試料の物性値測定



微動観測のための地震計設置



湯だまりでの噴湯現象

